

## 平成24年度第2回青森県立郷土館協議会について

青森県立郷土館協議会が開催されました。

○ **日時** 平成25年1月30日（水）午後1時30分～午後3時30分

○ **場所** 青森県立郷土館 小ホール

### ○ **次第**

1 館長挨拶

2 案件

(1) 平成24年度事業実施状況及び利用状況について

(2) 平成25年度事業計画（案）について

(3) 新たな「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」を受けての  
これからの県立郷土館の運営（案）について

(4) その他

### ○ **委員からの主な意見**

- ・ 今後の要望として、MLA連携（博物館・図書館・文書館の連携）を利用し、図書館との連携事業を企画して、実施までこぎつけてほしい。
- ・ データベースを使って、収集・保存されているプロパティ（資料・資産）の管理をしているとのことだが、今後、自宅や職場から、そのデータにアクセスして自由に検索できるような利用方法は考慮されているか。

（今後は、その方向に向かうことになるが、現在入力されているデータが少ないため、十分なデータ量になってから公開していくことを考慮しながら、データベースを検索可能なシステムに構築できないか検討している。）

- ・ 入館者が常設展も含めて増加しているということだが、その理由はどう分析しているか。
- ・ 入館者の増加は指定管理者制度を導入した効果ではないか。

（今年度は民俗展示室のリニューアルがあり、良いスタートを切ったうえに郷土館、指定管理者、外部事業者それぞれの企画展・特別展の企画力によって入館者の増加につながり、比例して常設展の入館者数も増えたためと考える。また指定管理者へ管理が移行した業務で広報・広聴部分があり、これまで県側もいろいろ行ってきたが、それ以上にきめ細やかに対応してもらった成果だと考えている。）

- ・ 青森県出身の人物をテーマにした「郡場寛」展、「成田彦栄コレクション」展は非常に良い企画展であった。青森県にこのような方達がいたということを知ることができ、貢献度が高いと感じる。入館者数は少ないだろうが、公的機関でなければできない企画展だと思うので、今後も続けてほしい。

(青森市出身の人物でも、ほとんどの県民が知らないことも多い。こういう方にスポットを当てていくことも郷土館の使命と考えている。また郡場寛は郷土館近くの小学校にも一時在籍していたということで、学芸課長が小学校で講演を行った。そういう形でも郷土館を利用してほしい。)

- ・ 着ぐるみを作って、郷土館のゆるキャラとして来館者の歓迎や展示室の案内をしてほしい。
- ・ 人々の目を郷土館に向けるために映像の力は非常に大切である。郷土館でも一般の子ども達目を惹くような映像を何かの機会に紹介してもらいたい

(子どもが喜ばば大人も喜び、また郷土館に足を運んでくれるきっかけになると思うので、ぜひ子どもが喜ぶようなものを考えたい。)

- ・ 郷土館の名称について、郷土館＝博物館ということを知らない人は多い。郷土という名前を残すとしても博物館という名称にした方が親しみが出てくると思う。
- ・ 郷土館は美術館でやるような展示をしていて施設のコンセプトがはっきりしない。名称も郷土館と付けるにしても郷土博物館や県立ふるさと博物館等考えてみてはどうか。
- ・ 郷土館には、お客様に本物を見せたいとする建物であってほしいし、総合博物館なので、いろいろな展示をしてもいいのではないか。館名を知っているか知らないかは大きな問題ではないと思う。

(郷土館は条例で設置されており、名称も当該条例で定められている。博物館のイメージを持ちにくいということに関しては、館発行のパンフレット等に「総合博物館」と併記している。今後もPR等、広報の部分でフォローしていきたい。)

- ・ エレベータは設置されているか。高齢者にとっては、あると便利。
- ・ エレベータ使用の案内表示は出ているか。また障がいのある方に対して、車椅子利用等の表示が館外にもあると来館しやすくなると思う。

(受付や1階にエレベータや車椅子利用の案内を出している。エントランスと裏口に車椅子を設置し、いつでも対応できるようにしている。)

- 中心となるテーマがはっきりしていれば、人の足も向くと感じる。
- 郷土館の中心価値は何か。それを見えるようにしたものが展示物であったり、常設展・特別展であるが、郷土館の中心価値やコンセプトを設定するための仕事をしてみてはどうか。
- 40周年ということも考えた場合、新たな企画として日頃利用する方々に郷土館を親しみやすく、受け入れやすくPRすることを検討する機会だと思う。
- 自己評価・外部評価を公開するのはとても大変である。そのまま数字を公開すると低いところに注目されてしまい、思わぬ指摘を受けることにつながるし、普段の郷土館の活動を知らない者にとっては、数字がそのまま評価につながることもあり得るので、WEB上で公開することに全面的に賛成はできない。